

教育・保育施設で多発

飲食店関連確認されず

1月クラスター

県が1月に認定した新型コロナウイルスのクラスター（感染者集団）は24例で、昨年8月の18例を上回り自別で最多となった。感染を防ぐのが難しい家庭を介して広がり、教育や保育の場でも例が多発している。臨時休校を余儀なくされた学校は防疫に上った。一方、過去の感染の波で目立った飲食店でのクラスターはなく、第6波の実態に合わせた対策が求められる。

一面参照

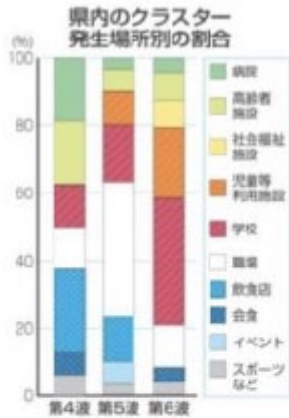
か」と指摘した。

第4波（昨年3～5月）

1月感染者1692人 昨年8月の1.1倍

と第5波（7～10月）でそれぞれ4件発生した飲食店関連のクラスターは、1月には確認されていない。県感染症対策課は「大人数の会食が減っている上、第三者感染を受けると店と利用者の双方が感染対策に注意を払っているのも要因の一つ」とみている。

を対策の柱にした「まん延の特性を踏まえた対策を確保防止等重点措置」に懐疑立し、基本的対処方針を見直す知事が少なくない。全直すよう政府に求めている。国知事会は、オミクロン株を。（秋月悠）



1月に小中学校や高校、大学で発生したクラスターは6例、保育所や幼稚園などの児童等利用施設は5例だった。児童によるスポーツ活動の関連も1例あり、児童・生徒の関係が全体の62.5%を占めた。施設が

子どもへの感染拡大の影響は学校運営にも及んだ。

ら家庭にウイルスを持ち込んだり、逆に家庭から施設に広げたりするケースが多く、家庭内関連の感染者は1月全体の27.5%に当たる466人となった。子どもへの感染拡大の影響は学校運営にも及んだ。

これまで比較的少なかった子どもへの感染が目立つことについて、徳島大学病院感染症制御部の東根代部長は「今のところ、オミクロン株が特に子どもに感染しやすいというエビデンス（証拠）はない」と言う。オミクロン株は精製に感染力が強いと、「子どもは対策を徹底するのが容易でなく、集団で過ごす時間が長いことも一因ではない